

# ふゆやすみにおすすめのほん

2022年12月和光市図書館



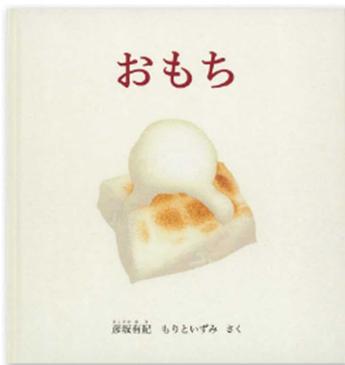
わ こうしとしょうかん しょくいん えら ふゆやす よ ほん しょうかい  
和光市図書館の職員が選んだ「冬休みに読んでほしい本」を紹介します。

ようじ しょうがく ねんせい ねんせい ねんせい ねんせい よ  
幼児むけ、小学1、2年生むけ、3、4年生むけ、5、6年生むけです。ぜひ読んでみてください。

よ ほん かじだしちゆう よやく としょうかん かうんたー ひと き  
読みたい本が貸出中のときは予約できます。くわしくは、図書館のカウンターの人に聞いてください。



## ようじ 幼児むけ



### 『おもち』

ひこさか ゆき ぶくいんかんしょてん ねんはつこう  
彦坂 有紀・もりと いずみ さく 福音館書店 2018年発行  
ぶんるい ほんかん いーちや ぶんかん いーあか  
分類 本館 Eチヤ 分館 Eアカ

もうすぐ おしょうがつ。みんなは おもち すきですか？  
おもちが やけて 「ぱりぱり ぷくり」。 「ぷうー ぷくっ ぷうー  
ぷくぷく」 おおきく おおきく ぷくらんだ。おいしそうな  
おもちのえと おとが たのしい えほんです。



### 『びんにいれたおほしさま』

さむ へい ぶん さら まっしーに え ぶくもと ゆみこ やく  
サム ヘイ 文 サラ マッシーニ 絵 福本 友美子 訳  
しゅふ ともしや ねんはつこう ぶんるい いーき  
主婦の友社 2021年発行 分類 Eキ

わたしの おとうとは いつも なにか いいものを みつけてく  
る。あるひ ひろってきたのは なんと ちいさな おほしさま！  
おとうとは そのたからものを びんにいれて たいせつそうに  
もちあるくけど、おほしさまは なんだか かなしそう。なぜなら  
それは まいごのおほしさまだったから……。

どうやったら おそらに かえしてあげられるかな？



### 『まっくらあそびしようよ！』

はた こうしろう さく ほるぶ出版 ねんはつこう ぶんるい いーみど  
はた こうしろう 作 ほるぶ出版 2022年発行 分類 Eミド

おばあちゃんちの やねうらべやで きょうは おとまり。  
あかりを けしたら まっくらすぎて ねむれない……。そうした  
ら おにいちゃんが かいちゅうでんとうを もってきて 「まっく  
らあそびしようか？」って。まっくらあそび ってなんだろう？

らいと や かめらをつかった たのしい まっくらあそび。  
ぜひ みんなも よる やってみてくださいね。



## 『サンタクロースって いるんでしょうか?』

フランス P チャーチ 文 中村 妙子 訳 東 逸子 画 偕成社  
ねんはつこう ぶんるい  
1986年発行 分類 386

いまから 120年ほどまえの アメリカで、8才の女の子がある  
新聞社に、しつもの手紙を おくりました。

「サンタクロースって、ほんとうに、いるんでしょうか?」

そのしつものにたいして、新聞社の記者さんは「子どものしつもんだ  
から」と ばかにしたりしないで、しんけんに 答えてくれました。どう  
答えてくれたのでしょうか。気になる人はぜひ、読んでみてください。

## 『しんぱいなことが あります!』

くどう じゆんこ さく よした ひさのり え きん ほししゃ ねんはつこう ぶんるい  
工藤 純子 作 吉田 尚令 絵 金の星社 2021年発行 分類 913



小学1年生のももは、まいにち たくさんの にもつをもって 学校  
へ いきます。わすれものをするのが、しんぱいなのです。おなじクラ  
スの かずまくんは、そんなもものことを「ヤドカリみたいだな。」とい  
います。かずまくんのランドセルには いつも ふでばこしか 入ってい  
ません。なので、かずまくんは いつも みがるです。ももは、そんな  
かずまくんのことを 「ずるい!」と おもってしまいます。ある日、  
ぐうぜん、かずまくんと かえりみちが いっしょになったももに、ち  
よっとした じけんがおこります。

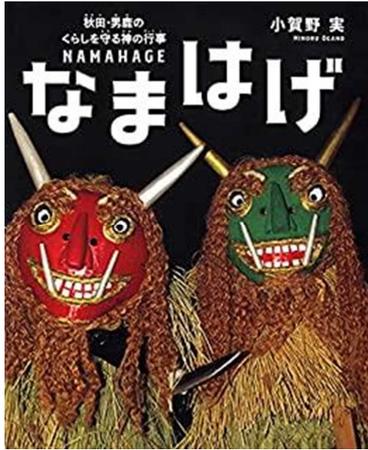
しんぱいばかりしていた女の子が、マイペースな男の子と いっし  
よに ちよっとした じけんを けいけんすることで、しんぱいごとが  
すこし、ふきとぶお話です。

## 『いもうとなんか知らない』

ロイス・ダンカン 作 平澤 朋子 絵 小宮 由 訳 岩波書店 2022年発行  
ぶんるい  
分類 933 夕



メアリー・ケイには いもうとの スザンヌがいます。スザンヌがい  
ると、メアリー・ケイは じぶんが すきなように あそべません。いっ  
しょに あそびたがる スザンヌは まだ小さすぎて じょうずに あそ  
べないので、いつも メアリー・ケイの じゃまに なってしまうのです。  
メアリー・ケイは スザンヌを ほかのだれかに あげてしまおうと か  
んがえて、スザンヌをつれて 外に いきますが…。おとうと、いもうと  
が いる人には 「そうそう!」と おもってもらえる お話です。

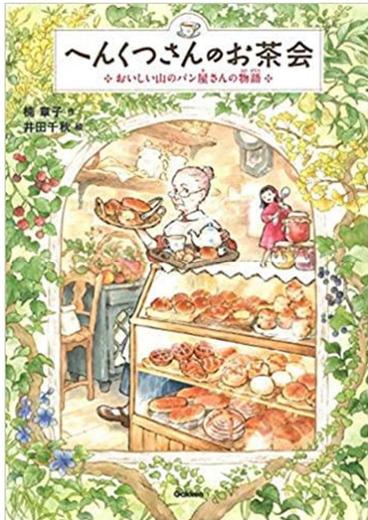


『なまはげ』 おがのみのる しゃしんぶん ポプラ社 2019年発行 分類 386

「なまはげ」と聞くと、ワラで作った衣装に、鬼のような恐ろしい顔と声で「泣く子はいねがー」と、家の中にドスドス入って来るこわいもの、というイメージではないでしょうか？でも、なまはげの本当の役目は、土地や家の守り神で、子どもたちの成長を見守っている、ありがたい存在なのです。

この写真絵本では、毎年大みそかにやって来る、秋田県男鹿市のなまはげが紹介されています。(2018年12月ユネスコの無形文化遺産にも登録されました)

なまはげとは、いったい何者なのか、気になってきませんか？



『へんくつさんのお茶会 おいしい山のパン屋さんの物語』  
くすのき あきこ さく がっけん ねんはっこう ぶんるい  
楠 章子 作 学研プラス 2020年発行 分類 913

ぽっこり山のふもとに、一軒のおいしいパン屋さんがありました。店の主人は、気むずかしそうな、おばあさん。みんなからは「へんくつさん」とよばれています。でも本当は、とてもやさしい人なんです。

3時のお茶にやって来た、小人や動物たちが、へんくつさんのパンと言葉に力をもらって元気になっていく、そんなすがたに心がほっこりさせられるお話です。



『野生のロボット』 やせい ピーター ブラウン さく え まえざわ あきえ やく  
ふくいんかんしょてん ねんはっこう ぶんるい  
福音館書店 2018年発行 分類 933

難破船から無人島に流れ着いた、人工知能ロボットのロズ。島の動物たちは、ロズを怪物だとけいはいしますが、動物たちのまねをしながら、学んで生きていこうとするロズの姿に、少しずつ友情が芽生えていきます。そんなある日、人間たちが送りこんだロボットが、ロズを探しにやって来るのですが……。ロズはどうなってしまうのでしょうか。自然や人間、家族や友情、そして生きることについて、考えさせられる物語です。

続編の『帰れ野生のロボット』も、ぜひ読んでみてください。



『ライトニング・メアリ 竜を発掘した少女』

アンシア シモンズ 作 布施 由紀子 訳 カシワイ 絵  
いわなみしよてん ねんはつこう ぶんるい  
岩波書店 2022年発行 分類 289



今から約200年以上も前のイギリスに、世界初の魚竜の化石を発見した少女がいたことを知っていますか？ メアリは、お父さんと一緒に行った海岸での「珍しい石」探しに夢中になり、やがて化石探しの名人となりました。貧しい家庭で育ち、学校に通うこともできなかったメアリですが、彼女が発掘した化石は評判を呼び、専門家が訪ねてきたり、協力してくれる仲間も増えました。メアリが、大人が相手でも自分の考えをはっきりと伝える様子は頼もしく感じます。また、「大昔の生物を自分の手で見つけたい」という強い意思と情熱には驚かされます。12才のメアリが、巨大な魚竜「イクチオサウルス」をどのようにして危険な崖の中から掘り出したのでしょうか？ ぜひ読んでみてください。

『ぼくらのスcoop』 赤羽 じゅんこ 作 講談社 2021年発行 分類 913

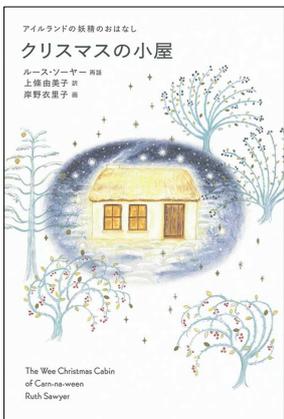


学級新聞を作りたくて新聞係に立候補したイダッチは、新聞にのせる記事を決めるために編集会議をしますが、変わりもののクラスメート「魔王」とは意見が合いません。自分がやっていないピンポンダッシュの犯人と間違えられたイダッチは真犯人を捕まえて記事にしようとしたり、クラスの意見箱に入っていた「作文の盗作疑惑」メモについて取材を始めますが、なかなかうまくいきません。「真実をのせたい」と主張するイダッチに、「人によってものごとの見方がちがうから何が真実かを決めるのはむずかしい」と魔王は言います。

ある時、魔王との会話がヒントとなり、イダッチは「身近で、みんなが知りたいとおもふこと」についてアイデアがひらめきました。二人はいったいどんな新聞を作ったのでしょうか？

『クリスマス的小屋 アイルランドの妖精のおはなし』

ルース ソーヤー 再話 上條 由美子 訳 岸野 衣里子 画  
ふくいんかんしよてん ねんはつこう ぶんるい  
福音館書店 2020年発行 分類 933 ク



「流れ者のいかけ屋」がある家の前に捨てられた赤ん坊はオーナと名づけられて、美しく優しい娘に成長しましたが、家族や家を持つことはありませんでした。オーナは人の家から家につり住んでは、住人の世話を一生懸命働いているうちに、年を取っていきました。家と呼べる自分の小屋を持つことはオーナの夢でしたが、その夢はかなうことがありませんでした。

やがて、アイルランドが大凶作になって食べ物が無くなった時、オーナは子どもたちに食べものをゆするため、家を出ました。雪がふる夜の暗やみの中、不思議なことがオーナにおこります。

心温まるクリスマスの物語と一緒に、美しいさし絵も楽しんでください。